地域教育～釧路まちなかフットパス～

釧路公立大学
経済学説史演習・神野ゼミA班

大澤、伊藤、鈴木、平山
本間、村田

目次

１.はじめに
２.現状認識
　Ⅰ.釧路市の人口減少の問題と考察
　Ⅱ.教育の転換
３.地域教育とは
４.初等教育におけるフットパス導入の提案
　Ⅰ.フットパスとは何か
　Ⅱ. フットパスによる地域教育の意義
５.地域教育的フットパスの先行事例
６.釧路におけるモデルコースの提案
７.まとめ

1.はじめに

「北海道の可能性」というテーマから・・・

- 釧路の「まち」というストック
  ⇒景観やみち
- 地域に住む「人」というストック
  ⇒知識や経験

１.はじめに

教育を
受けた人

双方向的な関係

魅力的な
まちづくり

1.はじめに

その社会ヴィジョンを実現するため・・・

初等教育に対して
フットパスを
地域教育として
導入することを提案する

２.現状認識
Ｉ.釧路市の人口減少の問題と考察

釧路市の人口

1984年/21万8145人(ピーク)

↓

2013年12月末/16万9100人

<u>2006年以降は毎年1300～2100人台のペースで減少を続けている</u>

（釧路市役所ＨＰ）

２.現状認識
Ｉ.釧路市の人口減少の問題と考察

生産人口

2005年/12万9千人
↓
2013年/10万9千人
↓
2020年/8万5千人(推定)

（釧路市役所ＨＰ）

２.現状認識
Ⅰ.釧路市の人口減少の問題と考察

人口減少の原因

→ **<u>転出超過</u>**による

転出超過とは・・・一定期間内で転出数が転入数を上回ること

市街への進学や就職を目指す若者の増加が大きな影響を及ぼしている

２.現状認識
Ⅰ.釧路市の人口減少の問題と考察

転出超過が及ぼすもの・・・

・生産年齢人口の減少⇒経済力のダウン
・**<u>釧路の「まち」のよさや魅力を後世に伝達する人の減少</u>**

懸念材料である

2．現状認識
Ⅰ．釧路市の人口減少の問題と考察

- なぜなら・・・

「地域の担い手」には、地域の特性や魅力を知り、より良いものにしようとし続けることが求められるため

２.現状認識

Ⅰ.釧路市の人口減少の問題と考察

従来の地域づくり → 「産業」や「モノ」に重点を置いていた

これからの地域づくり → 「人」が重要である

<u>よって「地域の担い手となる人」の育成が必要</u>

２.現状認識
Ⅱ.教育の転換

明治の近代学校制度導入以来

- 学校教育の体系化
- 教育の機会均等
- 教育の普及と量的拡大

1960年代以降

- 都市化の進行と地方過疎化
- 能力主義
- 受験戦争

２.現状認識
Ⅱ.教育の転換

こうした状況下で・・・

地域社会での生活体験に
関わる関心が弱まり
学校教育における地域社会の
位置づけは低下してしまった

２．現状認識
Ⅱ.教育の転換

こうして形成された「閉ざされた空間」の中で
「能力主義的」な教育は現代まで続いてきた。

しかし、
「他者との協調性」や地域の文化を学ぶ
「心」の教育も本来求められていたはず

２.現状認識
Ⅱ.教育の転換

現代教育 → 「閉ざされた空間」で能力主義的な教育を行ってきた

しかし、本来「心」の教育が求められていた

本来の学校教育では
「他者との協調性」や「心の教育」のような
「**普遍的な人間力**」の教育を
学校には求められている

そのためには**体験学習**が必要である

2．現状認識
Ⅱ. 教育の転換

人との触れ合いによる
「体験的な学習」が必要不可欠

⇒それは教師だけでは難しい

「地域教育の在り方」が見直されるべきである

２.現状認識
Ⅱ.教育の転換

以上のことは、教師だけで行うのは難しい

↓

学校が地域に対して「開かれた空間」となり
地域と学校が連携を取って教育を施していく、
「地域教育の在り方」が見直されるべきである

３.地域教育とは

地域教育とは・・地域とそこで暮らす「地域住民」による「子どもたち」への教育を指す

地域教育を行うには・・学校と地域との連携が前提となり、<u>暮らしにある全てを学び場とする</u>

例）社会、経済、事業、自然環境、動植物、文化
芸術、伝統、光景

４.初等教育におけるフットパス導入の提案
Ⅰ.フットパスとは何か

フットパスとは・・

　イギリスを発祥とする“森林や田園地帯、古い町並みなど、地域に昔からあるありのままの風景を楽しみながら歩くことができる小径”のことであり、ひいてはこのみちを歩くことの総称である

４.初等教育におけるフットパス導入の提案
Ⅰ.フットパスとは何か

昨今フットパスは観光や
まちづくりの活性化対策として
全国の自治体や市民から
注目を集めている

４.初等教育におけるフットパス導入の提案
Ⅰ.フットパスとは何か

フットパスのメリット

- 資金や人的資本に恵まれていない地域でも、コモンズの既存ストックを活用し、“いいみち”を作成できる
- 既存ストックを強化し存続させることができるため、伝統の継承や景観保全につながる
- 地域住民自身が地域の魅力について学ぶことができる

4.初等教育におけるフットパス導入の提案
Ⅰ.フットパスとは何か

地域住民 → ・新たな魅力の発見
・地域に対する愛情や連帯感

以上のような感情から
・まちづくりへの原動力
・資源の保全を重視する意識
が形成される

地元を愛する人の増加 → 協力しまちづくりを行う → よりよいまちの形成

４.初等教育におけるフットパス導入の提案
Ⅰ.フットパスとは何か

以上のようなメリットを持つフットパスは観光の側面だけではなく・・・

地域教育として応用できる

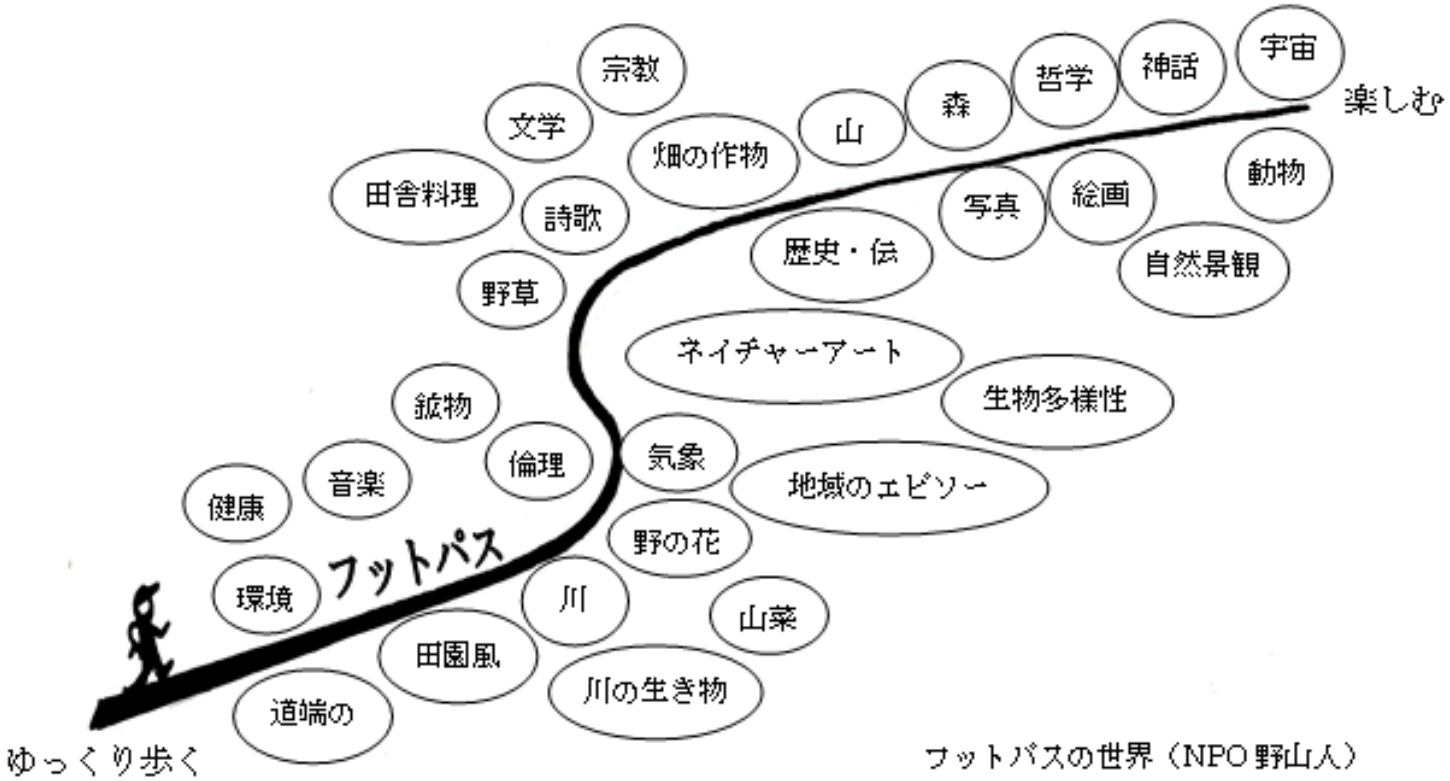
４.初等教育におけるフットパス導入の提案
Ⅱ. フットパスによる地域教育の意義

<u>フットパスを初等教育に地域教育として導入することからもたらされる教育効果</u>

①子どもたちの「自ら学ぶ姿勢」を育み、子どもたちにその地域の文化や魅力を伝えることができる点

②「児童期」に地域の人々との関わりを設ける場を提供することが、子どもたちの社会性の発達に大きく貢献できる点

４.初等教育におけるフットパス導入の提案
Ⅱ. フットパスによる地域教育の意義①



フットパスの世界（NPO 野山人）

４.初等教育におけるフットパス導入の提案
Ⅱ. フットパスによる地域教育の意義①

フットパス → 子どもたちの「自ら学ぶ」姿勢を育む

「地域の担い手」として人間が成長するには
地域の特徴を理解し、
その文化を自ら学ぶことが重要である

なぜなら・・学校で学ぶこととは異なり地域文化は**普遍的な概念**として子どもたちに伝達できないからである

４.初等教育におけるフットパス導入の提案
Ⅱ. フットパスによる地域教育の意義①

体験学習となる
フットパスを導入

↘

文化や魅力は
非言語的に伝達される

４.初等教育におけるフットパス導入の提案
Ⅱ. フットパスによる地域教育の意義②

社会性のある子どもとは・・・

　協調性の有無だけではなく、その社会で承認されている行動を身に付け、その社会が子どもに要求している役割を演じ、他の人々や集団などを中心にして行われる社会的活動に対して、好意的態度を持っている子どものこと

４.初等教育におけるフットパス導入の提案
Ⅱ. フットパスによる地域教育の意義②

・「児童期」 ➡ 社会的欲求に伴う情緒が大きく育まれる時期であり、社会的活動に対して好意的態度を持っていることが「児童期」における社会性の発達である

つまり・・「児童期」に地域の人々等の他者との関わりを設ける場を提供することが、**社会性の発達に大きく貢献できる**

４.初等教育におけるフットパス導入の提案
Ⅱ. フットパスによる地域教育の意義

①子どもたちの「自ら学ぶ姿勢」を育み、子どもたちにその地域の文化や魅力を伝えることができる点

②「児童期」に地域の人々との関わりを設ける場を提供することが、子どもたちの社会性の発達に大きく貢献できる点

以上２つの教育効果より

フットパスを初等教育に導入することには
整合性がある

５.地域教育的フットパスの先行事例

「ＮＰＯ法人環境ボランティア野山人」

- フットパスコース整備
- ガイドブックの作成
- 観光ガイドの配置
- 環境整備活動
- 講演活動
- 地元小学校のフットパス遠足ガイド

※これらの活動は全て一般人による、ボランティア活動である。

５.地域教育的フットパスの先行事例

従来の遠足 → 子どもたち自身で目的地まで歩く

近年の遠足 → バス移動などにより観光的要素が強い

よって従来に比べ
自分で考えて行動することが少なくなっている

５.地域教育的フットパスの先行事例

野山人によるフットパス遠足

- あえて危険なみちを歩く
- 悪天候でも行う

子どもたち自身がみちから多くのことを学び考え、行動する力を身につけさせるため

6 .釧路におけるモデルコースの提案

上富良野町では・・

小学校が
野山人へ依頼

→

地域と学校が連携した
「フットパス」の導入

６.釧路におけるモデルコースの提案

コース作り → 魅力の再発見

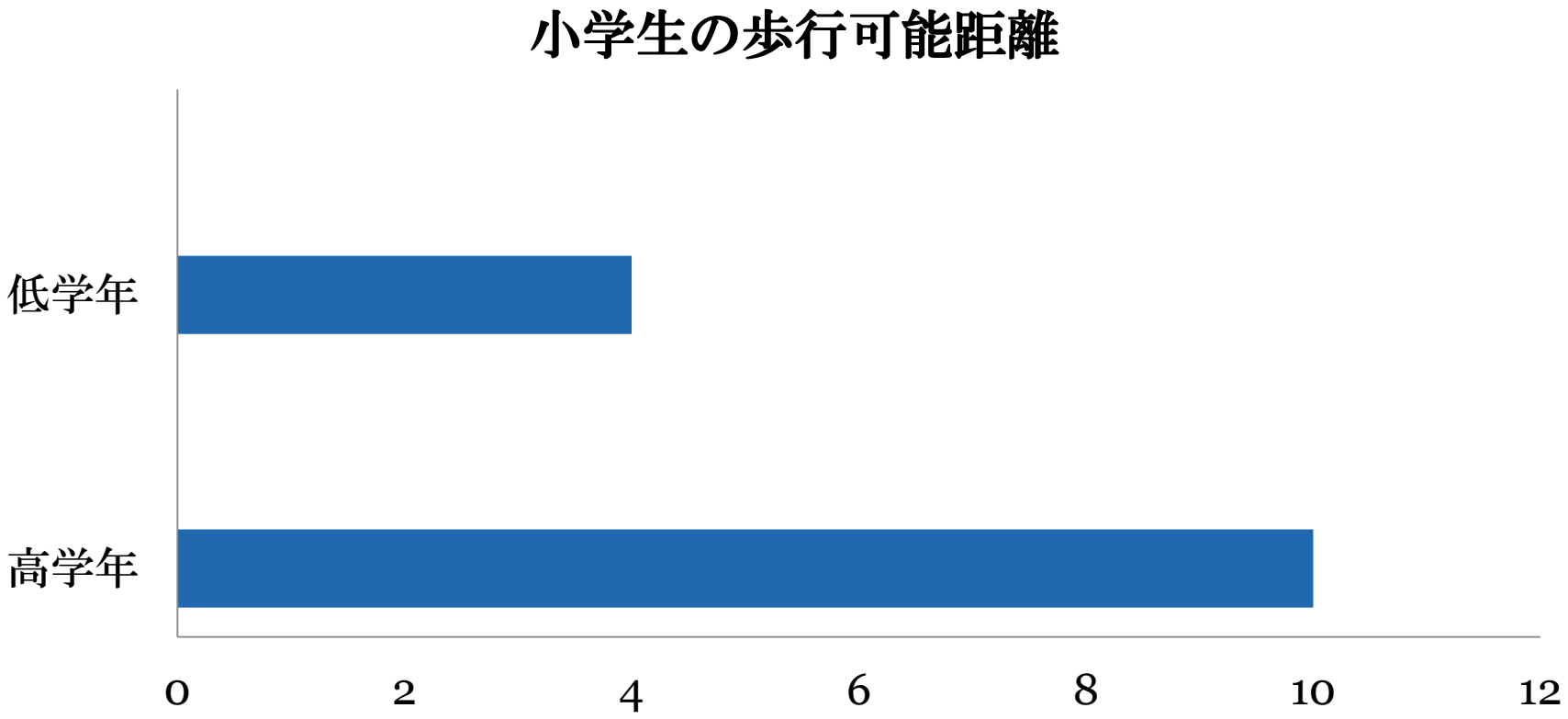
よって・・<u>コース作成は「教師」だけではなく「地域住民」と協力して行うのがよい</u>

6 .釧路におけるモデルコースの提案

モデルコース作成にあたって

- テーマ別のフットパスコース
- コースへのアクセス面
- 子どもの歩行距離

６.釧路におけるモデルコースの提案

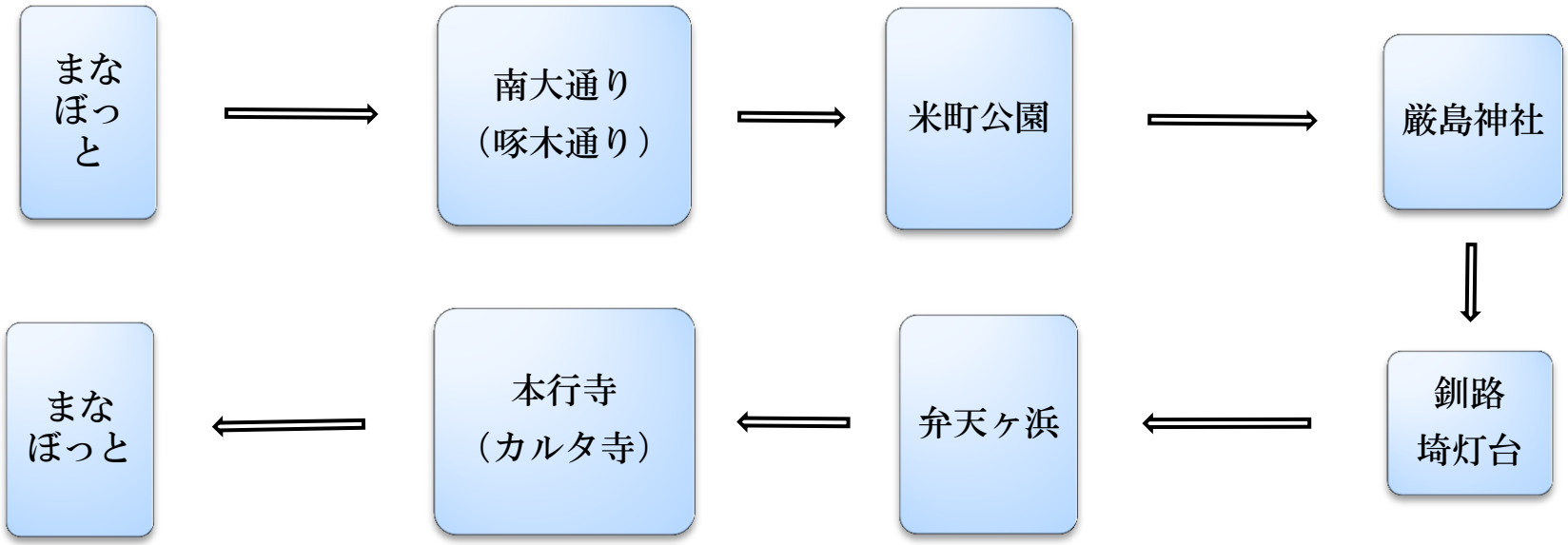


ＮＰＯ法人環境ボランティア野山人代表佐川氏の取材より

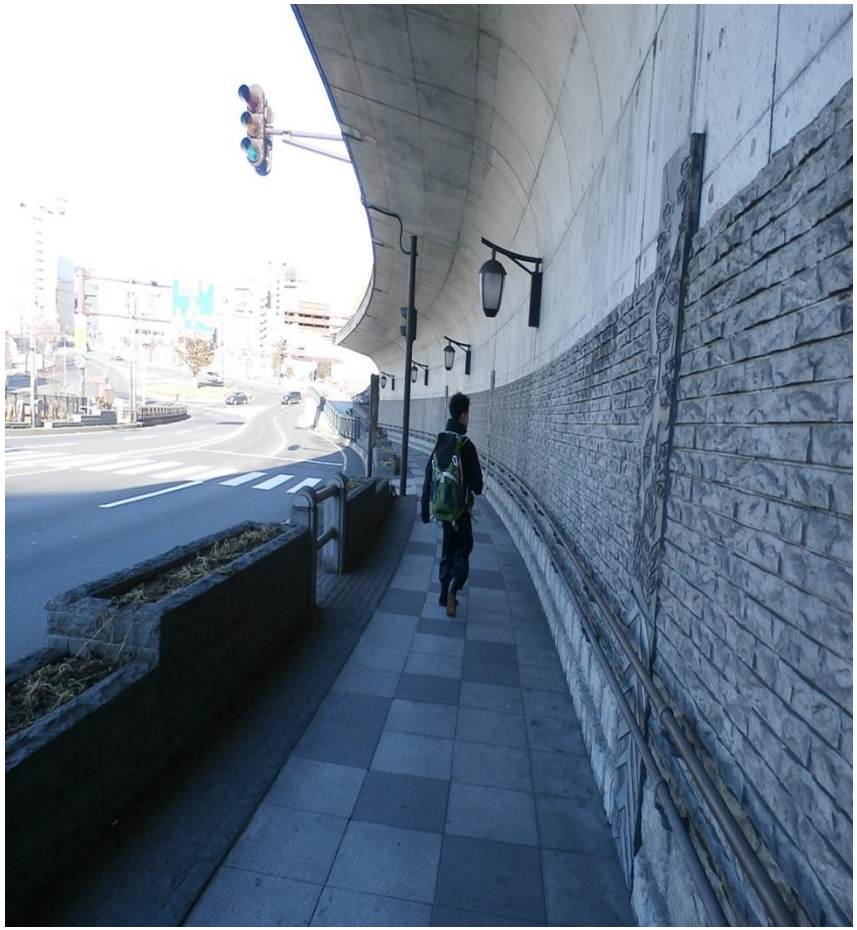
6.釧路におけるモデルコースの提案

○歴史コース

6.釧路におけるモデルコースの提案

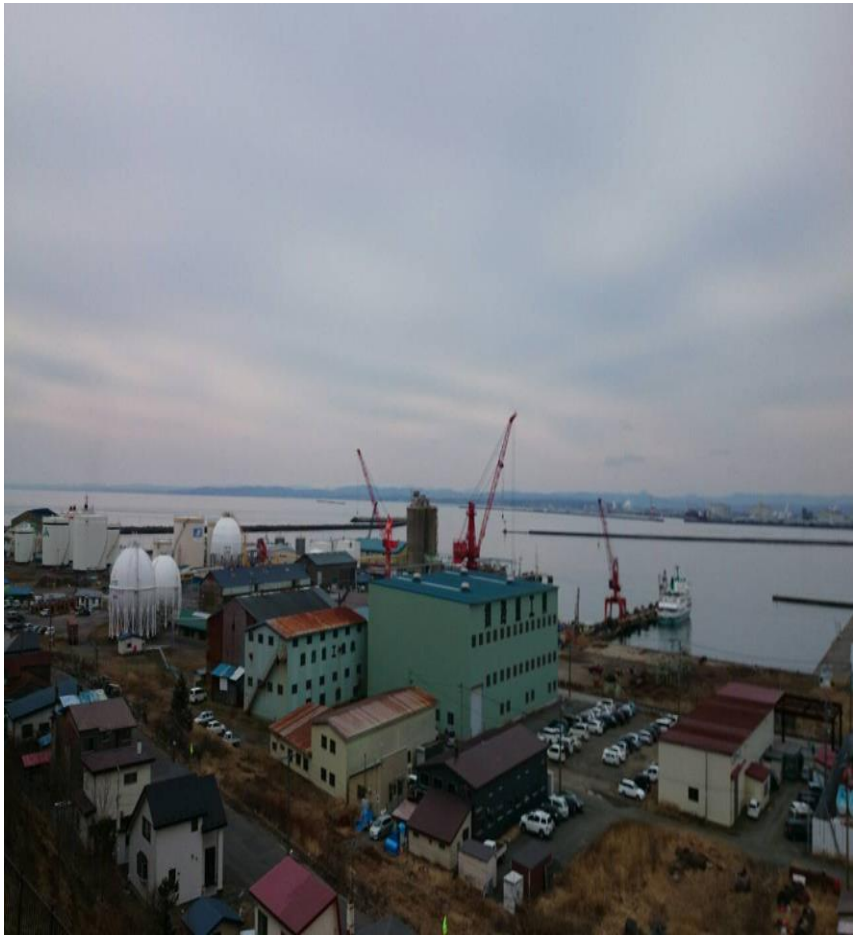


６.釧路におけるモデルコースの提案
まなぼっと～南大通り（啄木通り）



６.釧路におけるモデルコースの提案
南大通り（啄木通り）～米町公園

６.釧路におけるモデルコースの提案
米町公園



６.釧路におけるモデルコースの提案
米町公園～厳島神社

６.釧路におけるモデルコースの提案
厳島神社

６.釧路におけるモデルコースの提案
厳島神社～釧路埼灯台

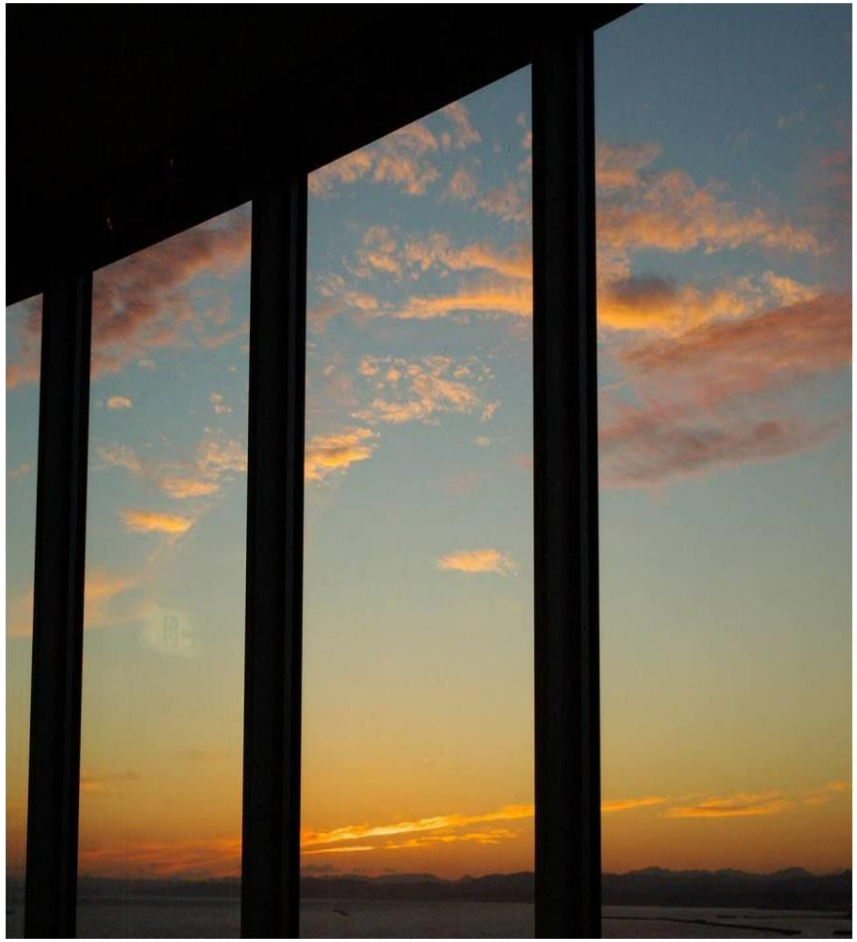
６.釧路におけるモデルコースの提案
釧路埼灯台

６.釧路におけるモデルコースの提案
弁天が浜

６.釧路におけるモデルコースの提案
弁天が浜～本行寺（カルタ寺）

６.釧路におけるモデルコースの提案
本行寺（カルタ寺）

６.釧路におけるモデルコースの提案
まなぼっと



7．まとめ

新しいまちづくり

→「人」を重視し、地域を自ら進んで知り、守ろうとする「担い手」として目覚めさせることで活性化を目指すもの

<u>「担い手」には「自ら学ぶ」姿勢と、小さなコミュニティ単位での協調性が必要である</u>

7. まとめ

フットパスを地域教育に応用する理由

- どのような地域でも行える
- 住民自身が魅力について学べる
- 伝統の継承や景観の保全

以上から地元愛や連帯感を生み、更なるまちづくりの原動力というような**意識の変化**をもたらす

7．まとめ

フットパスを教育として応用されることによって

↓

非言語的・体験的に魅力を伝えることや
幅広い分野での学習を可能にする

7．まとめ

初等教育に
地域教育として
フットパスを
導入することを提案する

ご静聴ありがとうございました。

神野ゼミA班一同